

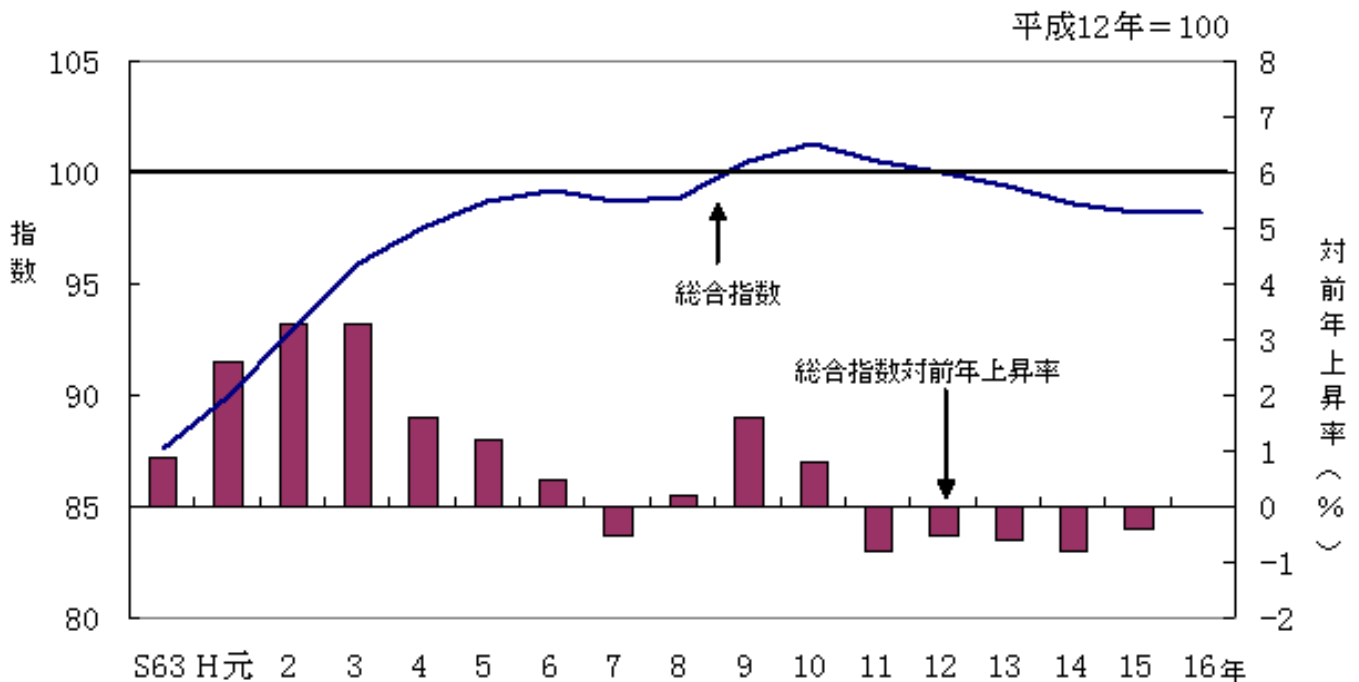
あらまし

平成 16 年平均の名古屋市消費者物価指数(確報値)は、平成 12 年を 100 とした総合指数で 98.2 となり、前年と同水準となりました。対前年上昇率は平成 11 年から平成 15 年まで5年連続で下落していましたが、平成 16 年は同水準となりました。

前年からの主な動きをみると、相次ぐ台風の上陸や長雨の影響で生鮮野菜が値上がりしたことに加え、平成 15 年の冷夏の影響で穀類が値上がりしたことにより食料が上昇しました。一方、家庭用耐久財の値下がりにより家具・家事用品が、教養娯楽用耐久財の値下がりにより教養娯楽がそれぞれ下落しました。

なお、生鮮食品を除く総合指数は 98.0 となり、前年に比べ 0.1% の下落となりました。対前年上昇率は平成 11 年以降6年連続で下落しており、下落幅は縮小したものの、緩やかなデフレは依然として続いています。

図1 名古屋市消費者物価指数の年次推移



前年からの動き

・食料は 99.5 となり、前年に比べ 1.0% の上昇

生鮮魚介は 2.1% の下落

<値上がり>かつお、いかなど

<値下がり>まぐろ、えびなど

生鮮野菜は 5.5%の上昇

<値上がり>ほうれんそう、ねぎなど

<値下がり>かんしょ、さといもなど

生鮮果物は 5.0%の上昇

<値上がり>みかん、りんご(ふじ)など

<値下がり>バナナ、グレープフルーツなど

穀類は 3.7%の上昇

<値上がり>うるち米など

外食は 1.8%の上昇

<値上がり>牛どんなど

・住居は 101.4 となり、前年に比べ 0.6%の上昇

家賃は 0.9%の上昇

<値上がり>民営家賃(木造中住宅)など

・光熱・水道は 97.9 となり、前年に比べ 0.2%の下落

・家具・家事用品は 80.3 となり、前年に比べ 7.4%の下落

家庭用耐久財は 14.7%の下落

<値下がり>ルームエアコン、電気冷蔵庫など

・被服及び履物は 99.9 となり、前年に比べ 1.3%の上昇

衣料は 1.5%の上昇

<値上がり>スカート(秋冬物)など

・保健医療は 102.7 となり、前年に比べ 0.2%の上昇

・交通・通信は 98.6 となり、前年に比べ 0.5%の下落

自動車等関係費は 0.6%の下落

<値下がり>自動車保険料(任意)など

<値上がり>ガソリンなど

・教育は 103.3 となり、前年に比べ 0.6%の上昇

授業料等は 0.8%の上昇 <値上がり>私立大学授業料、私立高校授業料など

・教養娯楽は 89.6 となり、前年に比べ 1.9%の下落

教養娯楽用耐久財は 12.6%の下落

<値下がり>パソコンなど

・諸雑費は 101.7 となり、前年に比べ 0.3%の上昇

表1 10大費目別対前年上昇率及び寄与度

平成12年=100

		総合	生鮮食品 を除く 総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及 び履物	保健 医療	交通・ 通信	教育	娯楽	諸雑費
		対前年 上昇率 (%)	15年	△ 0.4	△ 0.4	0.1	0.8	△ 0.2	△ 1.3	△ 5.5	△ 1.7	3.1	0.0	0.7
	16年	0.0	△ 0.1	1.0	2.7	0.6	△ 0.2	△ 7.4	1.3	0.2	△ 0.5	0.6	△ 1.9	0.3
寄与度	15年	△ 0.40	△ 0.39	0.03	0.04	△ 0.03	△ 0.09	△ 0.18	△ 0.10	0.12	0.00	0.03	△ 0.21	0.04
	16年	0.00	△ 0.10	0.30	0.13	0.10	△ 0.01	△ 0.23	0.08	0.01	△ 0.07	0.03	△ 0.20	0.01

●利用上の注意

1 年平均指数確報値について

この年平均指数確報値は、平成16年1月から12月の各月の指数値を用いて、総務省統計局が集計したものです。

2 指数について

- (1) 指数の基準時及びウエイトの算定期間は、平成12年の1年間です。
- (2) 指数の算式は、基準時加重相対法算式(ラスパイレズ型)によります。
- (3) その他詳しくは総務省統計局公表資料を御覧ください。